

## ドローン「動いた！」小中学生操作体験



体育館で浮かび上がったドローンに大はしゃぎする子どもたち

五所川原

五所川原市少年少女発明クラブは29日、同市の東北職業能力開発大学校青森校でドローン教室を開いた。市内の小中学生約30人が参加し、ドローンが動く仕組みや操作方法の基本を実演を交えて楽しく学んだ。同クラブの指導員で、同

見方は第3社会面



奥T画  
東NE動

校電子情報技術科の竹花洋次郎特任教授が講師を務め、子ども向けのプログラミング言語を使ったシステムでドローンを飛ばせると説明。実際に、全長約60センチ

のドローンを屋外グラウンドで30センチの高さまで飛ばして見せると、子どもたちは歓声を上げ、興味津々でドローンの動きを観察していた。

その後、子どもたちは体育館で、タブレット端末を用いて小型のドローンを操作し、空中にロープで浮かべた風船の周囲を飛ばすリレーゲームに参加。動作の加減に苦戦しながらも「動いた」「もっと右に」と、ふわふわと動く機体の操作に熱中していた。

倉坪湊人君（同市栄小3年）は「曲がる操作の加減が難しかった」、前田琴羽さん（同市いずみ小3年）は「空中で止まったり、おもしろい動きをしていた」と話した。

（小泉結香）